

令和6年度 第2回櫛引地域振興懇談会

1 日 時 令和7年3月19日(水) 午前 10時～

2 場 所 櫛引庁舎第1会議室

3 出席者

【委 員】 会長 高橋治郎、副会長 清和ふみ子、遠藤守委員、三浦雅浩委員、
安野良明委員、五十嵐誠一委員、秋山彌里委員、本間与一委員、
馬場合委員、叶野由佳委員、渡会美香委員

【櫛引庁舎】 支所長 佐藤友志、総務企画課長 遠藤直樹、市民福祉課長 佐藤栄一、
産業建設課長 斎藤秀一郎、市民福祉課長補佐 佐藤千冬、
産業建設課長補佐 佐藤隆一、総務企画課主査 大江山守、
未来事業推進員 伊藤由美

【本 所】 地域振興課主査 渡部久美子

4 会議次第

1. 開 会

2. 挨拶 高橋会長

3. 報 告

(1) 前回の櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について(資料1)

4. 懇 談

(1) 櫛引地域重点施策について(資料2)

(2) まちづくり未来事業について(資料3・参考資料)

(3) 櫛引地域におけるイベントや行事について(資料4)

(4) その他

5 その他

6 閉 会

3 報 告

(1) 前回の櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について(資料1)
→ (櫛引庁舎支所長説明)

4 懇 談

(1) 櫛引地域重点施策について（資料 2）

(2) まちづくり未来事業について（資料 3・参考資料）

→ （櫛引庁舎総務企画課長説明）

→ （櫛引庁舎市民福祉課長説明）

→ （櫛引庁舎産業建設課長説明）

委員より意見・質問

【E 委員】

黒川橋も庄内交通のバスも無くなり過疎化が進んでいる東地区で収入源になるようなものが何かあるのか。米の価格は上がっているが農家の収入につながっているのか。当局はどう考えているか。

【支所長】

農業は担い手不足で耕作面積を維持できない状況。グループで土地を維持する仕組みを作りたいと考えている。農業の所得向上の為に面積を維持しながら、加工販売などで所得を維持して農業の底上げを目指して取り組んでいる。黒川には若手農家のグループ「くろかわ農人（くろかわのうと）」がある。

【E 委員】

東地区の総収入はわかるか。

【支所長】

わからない。

【E 委員】

生活が安定していないと、イベントなどへの協力は難しい。

【支所長】

行事の目的はいろいろある。すべてが所得に結びつくものではなく、参加することの意味もある。

【E 委員】

イベントをやっているが、盛んにしようとしても地域の指導者がいないと進まない。指導者の育成を行政でも考えてほしい。

【A 委員】

道路維持にカーブミラーも含まれるか。漆原にあるカーブミラーが木と重なって見えずとても困っている。朝は交通量が多い県道なので若干動かしてもらいたい。担当は産業建設課でいいのか。

【総務企画課長】

カーブミラー関係は総務企画課で担当する。区長に要望などの聞き取りは行っているが、後ほど詳しく教えてほしい。移設等が必要な場合、予算の兼ね合いで優先順位をつけて対応させていただく。

【会長】

地区の交通安全委員に相談すると手配してくれる。カーブミラーの修繕等は区長にお願いするとよい。

【B委員】

広域組織化はある程度目途をつけたほうがいいと思うが、どう考えているか。

【総務企画課長】

実態調査の結果、直ちに必要ないというところが大多数。10年後には必要という地区が半数。行政側も広域化ありきではない。市内部でも考え方が変わってきている。組織を三つにするか一つにするか、どういった形がいいのか実態調査を踏まえて、目途を立てて検討する。小学校区単位の公民館が櫛引にはなかったので住民の理解がなかなか進まない。当初よりは遅くなるが、住民の理解を得ながら、団体の長を含めこれからを担う若手の人も委員に入れて検討体制を再編しようと考えている。その中で進め方を検討したいと思うのでもう少し時間をいただきたい。

【B委員】

雪解け後道路のあちこちに穴が開いている。市で巡回はしているのか。

【産業建設課長】

パトロールして小さい穴は自前で修繕し、大きな穴は業者へ委託し整備している。連絡いただければ現場確認し対応する。

【B委員】

今年の重い雪でやすらぎ公園の桜並木の枝折れがあちこちに見られる。桜も老木化している。たくさんのお客さんが来るので花見シーズン前にきちんと管理してもらいたい。河川の浚渫は進んでなく、見た目も悪く大雨があれば水害にもつながる。予算残ではなく、予算化して実施してほしい。

【産業建設課長】

やすらぎ公園の桜の枝折れなどは花見の時期が来る前に点検する。河川の浚渫については、昨年

は水害が多く対応できなかった。現場はこちらでも把握しており、状況を見て対応する。

【D委員】

ボランティアガイドの後継者不足と高齢化が進んでいる。実際案内出来る人が1人2人になってしまった。観光に来られた方に生の声で案内をするということは大変影響力が大きい。外に広めるのに口伝えで広まるということが大変大きいと思うが、その辺はどのように考えるか。

【産業建設課長】

観光ガイドの会の代表が一生懸命にやっているが次に続く人がいない。ボランティアガイドの料金を上げてとの話もしているが、お金に見合ったガイドができないのではないかと不安もあり育成につながらない。以前、代表が横綱柏戸記念館でガイドしている様子をCD化し保存する取組をしている。

【D委員】

羽黒山のガイド研修会に参加した。ガイドは地元だけでなく鶴岡地区の人もいた。地元の人に拘らず広く募ってガイドを養成する取り組みが必要だと思う。興味ある人への呼びかけ、交通費や日当など報酬を得られる仕組み作りも検討してほしい。

デマンド交通は7年度から別の形に変わるのか。利用者数は増えているのか。

【総務企画課長】

形は変わらないが予算の出所が変わる。乗降ポイントが一つ増える。利用者数は人の出入りがあり微増している状況。

【D委員】

鶴岡駅から黒川の王祇会館までをタクシーで案内するなど観光ルートのタクシーガイドをやることは出来ないか。

【総務企画課長】

デマンドタクシーはあくまでも生活支援を目的に事前の登録制で予約に応じ運行するというシステムで運輸局から許可をいただいている。その関係上、今の仕組みを観光に持っていくのには無理がある。観光に使う方法は全市的に考える必要があると認識している。

【D委員】

ライドシェア含めて個人客やファミリー客をターゲットにした小旅行を受け入れる態勢、そういうところに力を入れるべきではないか。

【産業建設課長】

来年度の予算に二次交通関連の予算も組み込まれているので、全市的に観光客の足の確保を考えていかなければならないと思う。南部エリア観光の未来事業の中でもガイドの件を含め今後どうすればいいか話し合っていきたいと思う。

【D委員】

観光協会でもフルーツタウンを目指しているが、観光果樹園がどんどん減っていて心を痛めている。アンケートの回答率も悪いと聞く、農家さんはどう考えているか。一番目立つのはサクランボ農家の減少。今後は農業法人や企業参入を養成していかなければいけないと思う。

【産業建設課長】

アンケート調査は 418 件中 140 件が回答し回答率は 33%。少なくみえるが、主要な果樹農家からは回答を得た。結果は現状維持 56%・縮小希望 38%(6 年以上 36%、5 年以内 35%)・拡大希望 6%。すぐに辞めたい人はあまりいないという結果だった。

何も言わずに果樹を伐採する人を減らし、櫛引の樹園地を極力維持していきたいと考えている。ゆくゆくは受け皿的な企業体が必要との意見がある。

【D委員】

状況をわからない人へ提示したり、受け皿的なものを立ち上げられるような支援をお願いしたい。青木小学校との都市農村交流やグリーンツーリズムを広げるために当局はどのように考えているか。

【産業建設課長】

様々な状況から青木小学校の修学旅行の受け入れはしないこととした。櫛引南小学校も今年度の修学旅行を最後に行かないこととなった。農協青年部は活動継続の意向があるので予算計上し引き続き支援していく。首都圏販売はコロナ化を経て人為的、金銭的に難しくなった。今年度をもって当初の目的は達成されたので首都圏販売を終了した。ネット販売や SNS で情報発信し向こうから来てもらう取組に注力していきたいと考えている。

【D委員】

南部エリア事業に観光協会としても力を入れたいと思っている。六十里越の草刈りは R7 年度も取り組みたいと考えているが、整備を含めて周知していくことが大事だと思う。朝日は山先導さん中心で行っているが、連携をとってやっていくべき。地元の人参加も必要。六十里越の草刈りを体験イベントとして企画して、地元の人に地元のことをもっと知ってもらうきっかけにしたらどうか。金峰含めてのルートづくり、地域が忘れ去っている印象、まずそれを掘り起こす取り組みが必要なのではないか。

【産業建設課長】

おっしゃるとおり、地元のイベント的なことを行い機運が高まれば地域の連携も深まると思うし、外からの集客につながるのではないかと。約90万円の整備予算を計上し、六十里越街道の整備を予定している。

【F委員】

デマンド交通のしくみを確認したい。

【総務企画課長】

対象は東地区全域。予約があれば走る。たらのき代と宝谷は隔日運行。黒川は途中なのでどちらでも利用できる。

【F委員】

将来免許を返納しても利用できるし、地区としては有難い。デマンド交通利用者から荘内病院まで直通で行ってもらえないかとの要望がある。

【総務企画課長】

要望があるのは把握しているが、デマンド交通は路線バスが走っている所まで繋ぐ役割となっている。二重投資や路線バス廃止の恐れが出てくることからである。今回、ゆ〜Town 線廃止に伴って市街地みーなまで行けるようになったことは、デマンドタクシーとしては一歩前進したと考えている。

(3) 櫛引地域におけるイベントや行事について

→ (事前配布していることで説明は省略)

【D委員】

夏祭りは昨年復活した。商工会事務局中心で行ったが、観光協会と商工会だけではできない。あり方はどうあるべきか。水焰の能の施設を活用することも考える必要があるのではないかと。

【産業建設課長】

容易でないという声は把握している。まだ決まっていないのでこの場では答えられないが、後ほど相談させてもらいたい。水焰の能については黒川能関係者と話し合いをしている。来年度は櫛引総合運動公園でやりたいという声があり猛暑を避けて9月に実施する。こういった形であれば続けていけるのか検討していく。

【D委員】

学童相撲大会は主要な小学校から参加してもらい盛り上がったが、柏戸が生まれた地元小学校か

らの参加がない。学校の理解が落ちていると感じる。子供のころから親しまないと相撲の競技に関心が向かない。子供に教えるところもなくなっている。どういう風に広めていくか、多くの子供たちが参加する大会になるよう検討したい。

【産業建設課長】

小学校や学校教育課へ意向を確認したり、JCや相撲連盟と連携して行っていきたい。わんぱく相撲大会は全国につながる大会、相撲文化を復活させたい思いがある。

【E 委員】

スポーツ大会時、スポセンでストーブを他へ貸してしまい参加者が寒かった。体育館の決まりをきちんとして利用しやすくしてほしい。

【F 委員】

ゆ〜Town のキャラクター「ゆ〜たん」が可愛くて好評なので、着ぐるみを作って色々なイベントでにぎやかに PR できないか。中に入る人を募集することで話題作りにもなると思う。

【支所長】

いいと思う。まず事務レベルで考えたい。

【G 委員】

ゆ〜Town に展示してある竹あかりを、水焰の能などもっと竹あかりの効果が発揮できる場面で利用できないか。

【総務企画課長】

スキー場のスリーナインの照明イベント時に、学習センター・子育て事業で製作した竹あかりも利用した例がある。せっかく作った物なので使い回しなど活用を検討したい。

【C 委員】

重点施策、予算が多岐に亘っている。メンバーに若手の世代・子育て世代が入っていない。今今が大変で地場の活動まで手が回らない。改めて外から人を引っ張ってくる必要がある。こういった情報発信をして、情報を得ていくのか。情報発信に長けている人や若手の意見も取り入れられたらよいのではないかという意見です。

【総務企画課長】

おっしゃるとおり、みなさん今今が大変という状況だと思います。たとえば若者未来創造事業についても、声掛けはしているが自分の活動等が忙しく参加するメンバーが少ないという実情がある。次年度は異業種間で交流など声かけを工夫して集まってもらえるよう研修できないかと考えている。

(4) その他 なし

5 その他

【H委員】

産直あぐりがさくらんぼのイベントに関わっている。異常気象とともに収穫が不安定。西片屋振興組合の会員にも参加いただいているが縮小傾向。さくらんぼの出荷自体も減少。要望数に応えられない状況が続いている。さくらんぼまつりというピンポイントで絞られると開催が難しく生産者も苦しくなる。期間を設けてさくらんぼウィークという形に変更できないか考えている。

【C委員】

山王ナイトバザールも昨年からやっていない。商店街でのイベントは、当日はわっと人が来るが、次の日は閑散としている。櫛引の中でウィークを決めて施設を回れるようなプランを立てて、1店舗ばかり頑張るのではなく、店舗連携して実施するのはどうだろうか。

【I委員】

講習会を開催しても参加者がいなくて中止の場合もある。情報発信をどうやってやっていくかが課題。推進員の中でもやっていきたい。カーブミラーはシルバー人材センターと社会福祉協議会と共催で、年1回掃除の他、危険個所の点検も行っている。修繕箇所など必要な箇所は総務企画課につないでいる。櫛引地域シルバー人材センターの会員の高齢化が進み平均75歳。最高齢で89歳。観光ガイドをやりたい会員もいるがやる場所がない。地元祭りに人がいないので派遣している所もある。

【A委員】

こどもを中心とした祭りが無いと感じる。昔は5/5のこどもの日にこどもまつりがあった。気軽なお祭りを何かと一緒にできないかなと思う。こどもを巻き込めば家族も付いてくる。

【会長】

地区に魅力がないと地区民は参加しない。昔ながらの風習では参加しない。各地区で魅力のある地区づくりをする必要がある。

【総務企画課長】

委員みなさんからの意見大変参考になりました。ありがとうございます。

以 上